



口 絵 三井文庫の再発足と資料等の移転

一九六五年（昭和四十）五月十四日、財団法人三井文庫の設立が認可され、七月二十二日に現在の書庫、事務所が竣工した。その四日後には、三井文庫研究員を中心とする職員の打合会議が、三井本館七階にて開かれており、文部省史料館（当時）に寄託していた資料等の移転および燻蒸について議論されている。九月、書庫内への資料等の搬入が完了し、活動休止状態にあった三井文庫の新たな事業活動がスタートした。三井文庫の再建および資料等の移転については、松本四郎「三井文庫の再建過程について」『三井文庫論叢』第三〇号（一九九六年）に詳しい。

前ページ上段の写真は、戸越の文部省史料館（戦前の三井文庫で戦後に文部省に売却した建物）からの搬出作業、下段の写真は上高田（現三井文庫）への搬入作業の様子。財団法人として再出発した三井文庫は、従来まで原則非公開であった三井家の家政や事業に関する資料を公開することとし、一九六六年二月に閲覧業務を開始した。

（木庭俊彦）